

好きな旅館にはふるさとのなつかしさがある  
千代田区の駿河台一丁目一番地に佇む小さなホテル

## 作家たちの宿

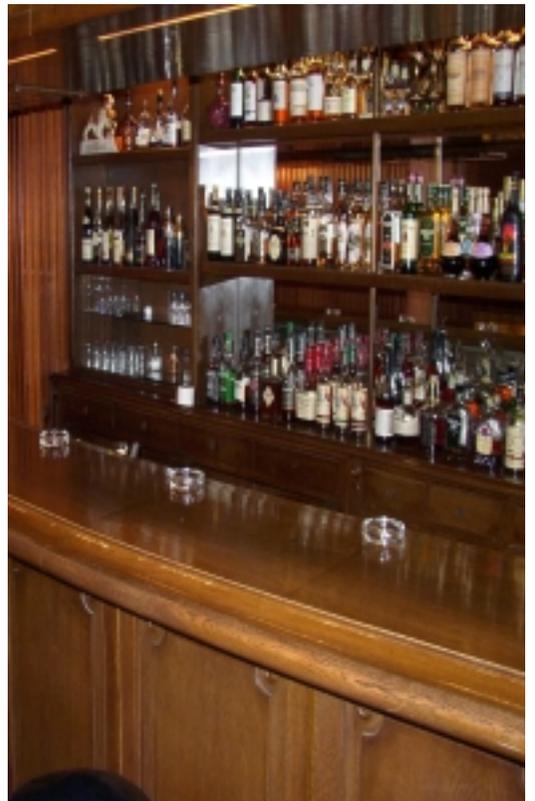
# 「山の上ホテル」を旅して

昭和文豪のお歴々が常宿にしていた山の上ホテルは、明治大学リバーテータワーのすぐ隣に位置している。山の上ホテルは今年で記念すべき50周年を迎えられたことから、作家たちに愛されながら静かに駿河台に歴史を刻んできたこの知的なホテルを訪れてみることにした。



「山の上ホテル」の本館

リバーテータワーの右手にある見慣れた「HILL TOP HOTEL」の看板、その先を少し歩けば、山の上ホテルはすぐ目の前だ。本館と別館を合わせて75部屋とけっして大きなホテルではないが、一歩足を踏み入れると、たちまちクラシックな雰囲気、目を奪われてしまう。三島由紀夫も山の上ホテルを大変好み、東京の真中にかういふ静かな宿があるとは思はなかった。設備も清潔を極め、サービスもまだ少し素人っぽい処が実にいい。ねがはくは、ここが有名になりすぎたり、はやりすぎたりしませんやうに」と言葉を残している。



### 英国風カウンターバー「ノンノン」

本館ロビー前には、こじんまりとした英国風のカウンターバー「ノンノン」がある。扉を開くと、中は重厚な雰囲気、しゃれた馬毛のスタンド椅子が9席並び、棚にはびっしり洋酒が並び、カウンター横には、89年パリ万国博覧会のガラス部門でグランプリを受賞したエミール・ガレ(1846～1904)の壺がさりげなく飾られている。



エミール・ガレの壺

### 廊下に飾られた池波正太郎の画

池波正太郎はこのほか山の上ホテルを「気持ちのよい宿」としてその晩年にしばしば利用し、ここでエッセーを書き、画を描き、神田神保町界隈を散策した。そのことは、池波正太郎の銀座日記(全3巻)(新潮文庫)に書かれている。池波正太郎の画がホテルのレストランや喫茶室に飾ってある。(『山の上ホテル物語』より抜粋)



# 客室

作家に好評なのはやはり和風の部屋だ。畳つきの部屋から庭つきの部屋までその造りは様々だが、共通点は居心地のよさだろう。各客室にはしゃれたデスクが備えつけられている。ここに座れば作家の気分を味わえるかもしれない。



客室のデスク



庭つきの部屋。窓の外に目を向けると、落ち着いた和風の庭園が広がっている。

私たちが宿泊したのは4階のデラックスシングル。ちょうど子供の日だったので美味しい柏餅を頂いてしまった。清楚で落ち着いた雰囲気のある部屋で、窓の外には木々の間からリバーティータワがそびえたっていた。夜には窓を開けて緑茶を飲んだりもしたが、ほんとうに都会の喧騒を忘れてしまったような静けさだった。



最上階に一つだけの客室

## 「モーツァルトの部屋」

塔最上階には西洋屋根裏風の部屋、通称「モーツァルトの部屋」がある。扉を開けると階段が続いていて、まるで屋根裏部屋に行くような造りになっている。山の山のホテルで唯一、オーディオセットが備えられた部屋で、壁にはモーツァルトの楽譜（原版の複写）が飾られている。クラシック音楽を聴いてくつろぐのには最高の部屋だろう。

「モーツァルトの部屋」へ通じる扉。まるで屋根裏部屋のように。



壁には楽譜やモーツァルトの肖像画などが飾られている。





カラリと揚げた江戸前てんぷらと季節の和食  
「てんぷらと和食」EのEのE

山の上ホテルびいきの宿泊客には、夕方にも楽しみが待っている。そう、山の上ホテル自慢のレストランでの夕食だ。天ぷら「山の上」といえば駿河台では知る人ぞ知る名店。揚げたての醍醐味を味わうカウンター席のほか、テーブル席や座敷も用意されている。本胡麻油でカラリと揚げた天ぷらは文句なしの一級品。「山の上」お勧めの天定食は二二、円。



カウンター席で揚げたての味を堪能したいところ。お店入口は本館1階。



別館地下の石焼イタリアン  
イタリアン・レストラン

別館地下には、400万円のピザ石窯を備えたイタリアン・レストランがある。あじわいのある内装で、ピザ石窯が本場の雰囲気醸しだしている。パスタランチは価格もお手頃なのだとか。



厳選素材のおいしさをシンプルに味わう鉄板焼  
ステーキどころ「ガーデン」

焼きたてのステーキが食べられる「ステーキどころガーデン」も忘れてはならない。上質の肉をステーキ専門のチーフがあなたの目の前で焼き上げてくれるのだ。ランチコースは二、円、ステーキコースは七、円から。



## チャペル

中庭には小さなチャペルがあり、緑と柔らかい日差しに包まれながらの教会結婚式を挙げることができる。



## 神前挙式場

山の上ホテルには、ホテルとしては珍しい  
儼かな神前式結婚式場も備わっている。



## あとがき

山の上ホテルのホームページにアクセスすると「もし、人が他人に与えられる最高のものが誠意と真実であるなら、ホテルがお客様に差し上げられるのもそれ以外にはない筈だと思います」という言葉が画面にうかんでくる。これが山の上ホテルの創業者、吉田俊男の目指したホテルの姿であった。

彼が築き上げたこの小さなホテルは、わがままで好みのうるさい作家たちに親しまれ、作家たちと共に静かな時を刻んできた。そして、今もなお、居心地の良い空間と心のこもったサービスを提供してくれる。

慌ただしく車が行き交う東京の真中で、仕事に疲れ、ふと心を落ち着かせたいと思ったとき、山の上ホテルに足を運んでみてはいかがだろうか。

山の上ホテル ホームページ

<http://www.yamanoue-hotel.co.jp/>